

NPOやシニア層の参画による 地域における子育ての担い手の多様化

「少子化社会対策大綱」（2020年5月29日閣議決定）では、家族の在り方や家族を取り巻く環境が多様化する中においても、子育て家庭を社会全体でバックアップし、かつて家族や地域が担っていた子育てを支える機能を時代にふさわしい形で再構築することが必要であることから、「NPOや活力・意欲あるシニア層などの参画を促すことで、子育ての担い手の多様化を進め、地域全体で子育て家庭を支えていく」こととしている。

NPO法人あい・ぼーとステーション（代表理事 大日向雅美）は、上記を体現するNPO法人の一つであり、周辺地域の子育て家庭に対する多様な子育て支援を提供するとともに、地域で活動する子育て・家族支援者の育成を行うなど、地域の育児力向上を目指した活動を展開している。2020年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、社会や人の分断が続き、これまで通りの活動が難しい中において模索が続いたが、人と人との絆、共生のあり方を見つめ直し、世代や性を超えた支え合いによる地域づくりを進めてきた活動をさらに広く発展させるため、オンライン・シンポジウム「ウィズ・コロナ すべての人に「居場所」を」を開催した。

シンポジウムに参加した内閣府からは、「地域少子化対策重点推進交付金」により子育てに寄り添う地域づくり支援（地域の子育ての担い手の多様化支援等）に取り組む地方公共団体の事例を紹介した。

1. 子育て応援まちづくり事業（宮城県塩竈市）

宮城県塩竈市では、母子保健事業を通して子育て世代への理解促進、支援意欲の向上を図ってきたが、地域の住民の関心は薄く、世代間格差が大きい状況であったことから、「子育て応援まちづくり事業」を実施している。

2019年度は、子育て世代と、その支え手として期待される子育て支援団体・個人ボランティアを対象とした塩竈市子育てサービスニーズ調査を実施した結果、子育て世代のニーズが地域に浸透していないこと、支え手側の支援意欲やそのための知識や技能のスキルアップのニーズは高いこと等がわかった。また、2020年度は、ニーズ調査対象者や、地域ボランティアとして活動するなど子育て支援に関心のある方向けの研修を実施した。しかし、2020年度に実施予定であった、互いのニーズを把握し理解し合うために世代間交流を図る地域交流会については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、2021年度以降に延期となった。

○子育てサポーター研修（2020年10月）

- ・対象：子育て世代へのサポートに興味のある方（ニーズ調査対象団体、地域ボランティア等）
- ・内容：「現在の子育てや子育て世代が求めている支援」についての講話、参加者同士で「子育て世代について感じる事、自分達ができる事」等についてグループワーク

- ・参加者の声：「地域のつながりが減っているが、困っている親子がいたら声をかけたい」「子供は宝なので地域ぐるみで育てることが大切。市民の中で子育てへの理解がもっと広まってほしい」等

今後も、子育てに温かい地域づくりに向けて、地域住民の世代間交流や研修を通して、子育て世代への理解や人材を育成する取組を継続していく。

2. タマゴ（他孫）育てネットワーク支援事業（石川県小松市）

石川県小松市では、子育て世代の転入があるものの、子育ての身近な支援者となる祖父母が近くにいない、または、祖父母が近くにも仕事をしていて相談しづらい等の理由により、子育て世帯が孤立しがちな傾向にある。このため、気軽に相談できる相手がいる環境で、核家族世帯が安心して育児ができるように、社会福祉法人小松市社会福祉協議会への委託により、「タマゴ（他孫）育てネットワーク支援事業」を実施している。

元保育士や子育て支援に興味のある方のネットワーク化や、講座受講者と子育て支援を求める団体とのマッチングの場を設定し、

市内に支援者のいない親子に安心して子育てできる環境を提供し、併せてシニア層の活躍の場を提供している。

○シニア層の掘り起こし

- ・保育所やコミュニティセンターでの声かけやチラシの配布
- 子育て支援講座（7～12月、全10回）
 - ・対象：意欲あるシニア層を広く募集（元保育士、児童委員のほか、現役時代には子育て支援に関わっていなかった方も参加）
 - ・内容：保育の知識・技能や、子供の発達に関すること等、講師は大学教授や助産師等の専門家
 - ・参加者の声：「専門的な分野について知ることができ勉強になった」等
 - ・受講後：ファミリー・サポート・センターや子ども食堂等でボランティア活動に参加

今後も、事業の周知方法を含めた意欲あるシニア層の更なる掘り起こしや、ニーズに合ったマッチング方法について、引き続き検討していく。



子育てサポーター研修におけるグループワークの様子（宮城県塩竈市）（2020年10月）



子育て支援講座で学ぶ受講者の様子（石川県小松市）（2020年9月）

3. 子育てピアサポーターの活躍推進事業 (京都府)

京都府では、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援をオール京都体制で推進する拠点として、「きょうと子育てピアサポートセンター」を2016年8月に設立し、「地域の子育て力の低下」という課題に取り組んでいる。

一般社団法人京都府保育協会やNPO法人ファザーリング・ジャパン関西との連携により、地域の高齢者が保育所や児童館、子育てイベント等で子供たちと一緒に遊ぶ「子育ての達人」の養成、「子育ての達人」の活用を希望する団体と登録者のマッチング、ピアサポートセンターSNS等での「子育ての達人」による活動例の発信等を行っている。

○「子育ての達人」講座

- ・対象者：子育て支援員の基本研修を修了した方（女性が多いが、元教員や子育て支援に関わってきた男性も参加）
- ・内容：子供と一緒に出来る頭と体を使った遊びや、様々な年代（幼児～児童）に対応できる遊び、昔遊びについての講義と実習を行う

○子育て支援イベント

- ・「子育ての達人」講座受講者による子供達との触れ合いが一番の人気コーナー

○2020年度は、感染予防を徹底し、2021年1月以降に「子育ての達人」講座を京都府内南北2会場で各3日間開催（例年3日目に実施している保育所体験実習は中止し、ロールプレイで対応）

4. 「イクケン香川」たまご育て事業（シニア層の参画促進）(香川県)

香川県においては、核家族化の進行や地域のつながりの希薄化により、子育て中の保護者の多くは子育てに関する不安を抱え孤立しがちである一方、子育て世代以外の者は、子供と触れ合う機会が減少していることから、認定NPO法人わははネットへの委託により、「イクケン香川」たまご育て事業を実施している。

子育て支援団体等が必要とするボランティア人材について、アンケート調査によりニーズを把握し、意欲あるシニア層に対して、活動に必要な知識や技能に関する研修を行い、研修参加者と子育て支援団体等のマッチングを行っている。

○シニア層ボランティアの需要と供給のニーズ調査

- ・ファミリー・サポート・センターや地域子育て支援拠点等（需要側）と、社会福祉協議会や地域のコミュニティセンター（供給側）でアンケートを実施し、双方のニーズを調査

○ボランティア活動へのきっかけづくり講座（11～12月、全3回）

- ・対象：意欲あるシニア層を広く募集（社会福祉協議会のサロン等利用者のほか、現役時代には子育て支援に関わっていなかった方も参加）
- ・内容：他孫育てに関する講演（いまだきの子育て事情のほか、手遊びなどの遊びを通じた子供への接し方等）
- ・参加者の声：「地域での幼児との関わりづくりに参考になった」等
- ・受講後：リーフレットを作成・配布し、活動の場を紹介



「子育ての達人」と遊ぶ子供たち
(京都府) (2019年3月)



遊びを通じた子供との関わり方を学ぶ
受講者の様子 (香川県) (2020年11月)

5. 今後に向けて

オンライン・シンポジウムでは、内閣府・厚生労働省や有識者等からの講演のほか、「まちプロ つながりま賞」の表彰が行われた。NPO法人あい・ぽーとステーションが2013年から開催している「子育て・まちづくり支援プロデューサー養成講座」(住友生命保険相互会社助成事業)では、シニア男性の第二の人生を切り拓く活動を支援しているが、シニア男性の地域貢献活動を全国各地に広げるために、この講座を経て認定された「子育て・まちづくり支援プロデューサー(まちプロ)」と互恵的な関係を構築できるグ

ループや、これから類似の活動を始めたいと考えている方を募った。受賞した団体からは、オンライン参加により喜びの声が届けられ、コロナ禍をきっかけとした新たなつながり作りの機会となった。また、2021年からは第9期の「まちプロ」養成講座も開始し、意欲あるシニア男性が現役時代の経験・特技を生かして子育て支援に参画すべく、奮闘を続けている。

今後も、活力あるNPOやシニア層などの参画を後押しし、子育ての担い手の多様化を進めることで、地域ぐるみの子育て支援が一層進展することが期待される。